

## 軽度知的障害者・発達障害者における キャリアカウンセリング技法の導入

企画者	尾高 邦生（順天堂大学）
司会者	尾高 邦生（順天堂大学）
話題提供者	尾高 邦生（順天堂大学） 李 受眞（浜松学院大学） 三浦 巧也（東京農工大学）
指定討論者	田中 里実（青山学院大学）

KEY WORDS: 知的障害 発達障害 キャリアカウンセリング

### 【企画趣旨】

軽度知的障害のある生徒や発達障害のある人の社会参加に向けた取り組みは加速しており、中でもキャリア教育・進路指導におけるキャリアカウンセリングは、重要な意味を有している。

改訂された学習指導要領においては、生徒の調和的な発達を支える指導の充実の観点から「主に集団の場面で必要な指導や援助を行うガイダンスと、個々の生徒の多様な実態を踏まえ、一人一人が抱える課題に個別に対応した指導を行うカウンセリングの双方により、生徒の発達を支援すること」と示している。一方で、多様な生徒の状態・特性に対するアプローチの方法論的検討は十分とは言えず、その開発が期待されている。

そこで、本シンポジウムでは、軽度知的障害や発達障害のある生徒を対象にしたキャリアカウンセリングについて、多様な対象に応じた実践モデルを紹介する。そのうえで、より多様な生徒が、自身のキャリアや自己の理解について、主体的にとらえることのできるカウンセリングの内容や方法について検討することを目的とする。

### 【話題提供者の趣旨】

#### 自己理解に着目したキャリアカウンセリング（尾高邦生）

キャリア教育において汎用的能力の一つとして自己理解の重要性が指摘されている。自己理解はキャリア形成や人間関係形成における基盤となるものであり、生涯にわたり多様なキャリアを形成する過程で常に深めていく必要があると考えることができる。一方で、知的障害のある生徒は、社会的な場面での自己の適応能力に関し、客観的に把握することが苦手な場合が多く（橋本,2014）、学齢期から就業生活に円滑に移行するためにも的確な自己理解が重要だと考える。話題提供では、知的障害のある高等部生徒に対し行った社会的な場面での適応状況に関するアセスメントの結果をもとにした自己理解に焦点をあてたキャリアカウンセリングの事例について紹介する。

#### 自己・他者理解支援技法のロールレタリング（李 受眞）

特別支援学校では、キャリア教育における進路指導にあたり、個々の児童生徒のニーズに応じてキャリアカウンセリングが求められている。このような個別のキャリアカウンセリングの中で、ロールレタリングといった技法の活用により自己についての気づきや重要な他者に対する明確化、自己カウンセリングの効果も得られるものと考えられる。

ロールレタリングとは、「自分自らが、自己と他者という両者の視点に立ち、役割交換を重ねながら、双方から交互に相手に手紙で伝える。この往復書簡を重ねることによって、相手の気持ちや立場を思いやるという形で、自らの内心に抱えている矛盾やジレンマに気づかせ、自己の問題解

決を促進する方法」（春口、1995）である。ロールレタリングという技法では、「手紙を書く」という主体的行為と書きながらみることで視覚的なツールになるとも言える。知的障害者には、手紙などの視覚的なツールが自己と他者の視点を明確化させることには有用であると考えられる。さらに、他者の感情や気持ちを意識していることは、重要な他者への認識や自尊感情とも深く関係している可能性がある。話題提供では、特別支援学校に所属している生徒、知的障害を持っている青年期の障害者の事例を基にキャリアカウンセリングの一環としてロールレタリング技法を紹介する。

#### 発達障害（その可能性）のある女子高校生へのカウンセリング（三浦巧也）

発達障害（その可能性）のある生徒への支援方法・技法について、これまで性差について論じられることは散見される程度であった。思春期の発達障害（その可能性）のある女子生徒の実態については、周囲から見落とされて、後々大きな危険性を孕むことがあると指摘されている。特に、高校に入学した発達障害（その可能性）のある女子生徒は、中学校までの「守られた環境」から、ほとんど知らない女の子たちに囲まれて、全く未知数である女子高生文化という新たな環境へ進むことが本当に試練となると危惧されている。彼女らは、社会的に求められる期待（学校生活における適応）と、特性による難しさの中で、適応の努力と失敗を繰り返すことで、表面的には社会で適応しているようなスキルを獲得するものの、失敗体験と自己否定的な原因帰属の積み重ねによって、自尊感情の低下が起きていることが明らかとなっている。そこで、話題提供では、発達障害（その可能性）のある女子高校生の自尊感情を支える新たな支援方法・技法について、先行研究や調査より模索したい。

#### 【指定討論者の趣旨】（田中里実）

私たちは社会規範や文化、経験から得た既有知識等の影響を受け、目の前の事象を解釈している。それらは情報処理の効率化といったポジティブな機能もあれば、ステレオタイプの思考から、目の前の事象を客観的に捉えることを困難にする場合もある。カウンセリングにおいても、支援者の専門性やこれまでの経験は、対象者の理解や支援に当然役立つものであると同時に、ステレオタイプの判断や言動が、対象者との共通理解を阻んだり、時には対象者を傷つけるリスクもはらむ。多様な生徒へのキャリアカウンセリングにおいても、支援者がまずはその“多様”さに客観的に目を向けることのできる技法やプログラム開発の視点が重要である。

(ODAKA Kunio, LEE SUJIN,  
MIURA Takuya, TANAKA Satomi)